

編集方針

本報告書発行の目的は、持続可能な社会を実現するための取り組みを開示することにより、ステークホルダーとの信頼関係を構築することです。2016年度は創業120周年を迎えることから、従業員にCSR活動と業務の関連性をわかりやすく伝えることで、一人ひとりが「創業の精神」を理解し、行動につなげる「アクションブック」としても使用できるよう編集しました。

網羅性の高い詳細な報告



CSR 活動報告ページ

Gunzeが優先的に取り組む テーマの報告



CSR ACTION BOOK
Gunzeグループ CSR報告書2016

GunzeのCSRに関する詳細なデータや最新情報は
Webサイトをご覧ください。

<http://www.gunze.co.jp/csr/>

- 対象期間／原則として、実績データは2015 年度（2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日）分を記載していますが、活動内容は一部 2016 年 4 月以降のものを含んでいます。
- 対象範囲／Gunze株式会社と国内外の子会社（非連結含む65 社）
- 参考になっているガイドライン／環境省「環境報告ガイドライン 2012 年版」
- 発行／2016 年 6 月（次回発行予定：2017 年 6 月）

CSR ACTION BOOK

Gunzeグループ CSR報告書 2016



Gunze株式会社

大阪本社 〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKA オフィスタワー
お問い合わせ先：CSR推進室 TEL：06-6348-4817 FAX：06-6348-4814
URL：<http://www.gunze.co.jp/>

創業の精神

人間尊重と優良品の生産を基礎として
会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる

CSR基本方針

企業理念、社是、グンゼ行動規範を経系に、取り巻くすべての利害関係者からの要請・期待に敏感に、柔軟に、誠意をもって応え、公正で誠実な企業活動を推進し、地球・社会と企業の持続的発展を目指し、社会的責任を果たします。

1.お客さまのために

常にお客さまの立場に立って考え、優良な商品・サービスの提供に徹し“売って喜び買って喜ぶ”を実践する。品質を第一義に、安全、安心、快適、満足を追求し、環境と人にやさしい製品・サービスの開発、提供で持続可能な社会の実現のために努力する。

2.お取引先さまのために

共存共栄の実現を目指す。独占禁止法、下請代金支払遅延等防止法をはじめとする関連法令およびその精神を順守することはもとより、公正かつ自由な取引を行う。公正さを疑われるような贈答や接待をしたり、受けたりしない。雇用における差別禁止、強制労働の禁止、児童労働の禁止を求める。

3.地域社会のために

積極的に社会、地域活動に参加し、社会との友好な関係を築き、地球・社会との持続可能性を追求する。

4.従業員との関係において

雇用および処遇における差別を行わず、機会の均等を図る。事業活動に関わるすべての人の人権を尊重し、強制労働・児童労働は行わない。従業員が適財^{たて}適所、多様性を発揮できる能力開発を推進し、社会に貢献できる人材^{ひと}を育成する。従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り尊重する。

5.地球環境のために

事業活動の全過程において生物多様性を含めた地球環境の保護、CO₂削減に積極的に取り組む。事業活動を通じた環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、環境にやさしい社会の実現に貢献する。

6.株主・投資家のために

CSR推進を通じ企業の信頼を高める。企業情報を積極的かつ公正に開示し、その信頼に応える。

注:グンゼでは人は財産であると考え、社内では「適財」「人材」を用いています。

CONTENTS	01 創業の精神・CSR基本方針	19 Mission3 環境負荷の低減
	02 トップコミットメント	23 労働安全衛生・人材開発
	03 グンゼグループ CSR2016のテーマ	25 内部統制システム
	05 特集1:グンゼを引っ張る、一人ひとりの元気	27 コーポレートガバナンス
	09 特集2:Close up 最先端プロジェクト	28 CSR活動を活性化するために
	11 Mission1 顧客満足の向上	29 第三者意見
	15 Mission2 地域社会への貢献	30 会社概要

トップコミットメント

“知行合一”を合言葉に
積極果敢に挑戦します！

グンゼ株式会社 代表取締役社長

鬼玉和



社名に込められた創業者の思い

当社が京都府何鹿郡(現在の綾部市)に、蚕糸業の振興を目的に『郡是製絲株式会社』として創業してから、今年で120周年を迎えます。

社名の「郡是」は「郡の方針・進むべき道」という意味であり、私たちは120年間この「郡の是」という考え方を基に、「人間尊重と優良品の生産を基礎として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」という「創業の精神」を今日まで脈々と受け継いでまいりました。

創業者波多野鶴吉は明治43年に次のような言葉を残しています。

自分は、はじめ片荷^{いかるがぐん}を負って、随分苦しんだ者であったが、その後、一荷^{たて}の荷を負うようになってから、大変楽になった。片荷とは何かというに、「会社のため」ということである。会社のためという片荷を負うておって、随分苦しんだが、これに「世の中のため」という荷を加えて、一荷になってから、平均がとれて、たいそうよくなった。

※片荷は天秤棒の一方にだけ付けた荷。一荷は両方に付けた荷

創業者が目指したのは、単なる会社ではなく、従業員、養蚕家、株主ほかすべての関係者と地域社会を幸福にする共同体でした。今も私たちは、この創業者の思いを変えてはならない経系として受け継ぐとともに、その時代・社会から求められ、期待される事業や商品・サービスを緯系として柔軟に織り込んでいくことで社会に貢献したいと考えています。

一人ひとりが未来のために何ができるか考え自ら実行する

2014年に「グンゼが持つ強みをさらに強化し、グンゼにしかできない“ここちよさ”をお客さまに提供するグローバル企業として社会に貢献する」という経営ビジョンを打ち出し、人々のクオリティオブライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野を核とした事業拡大に取り組んでいます。

そのためには、多種多様な考え方・価値観を受け入れる組織風土が必要であると考え、社長直轄の全社プロジェクトとして「ATG(明るく楽しく元気よく)プロジェクト」と「女性きらきらプロジェクト」を展開してきました。

職場が「明るく 楽しく 元気よく」なれば、お客さまへの商品・サービスの質が向上し、それによってお客さまの満足度が向上し、結果として「グンゼ」というブランドの価値向上にもつながると考え、これらのプロジェクトに取り組んだ結果、グンゼグループの「風通し」は徐々に改善されつつありますが、まだまだ目指している活力溢れる組織に到達したとは言い切れません。そこで、構成員一人ひとりがさまざまな課題を自分事としてとらえ、自ら率先して行動に移すために、今年度は「知行合一」を合言葉に積極果敢に行動する組織を目指してまいります。

今後も、社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆さまに“ここちよさ”をお届けする企業であり続けるために、「創業の精神」を変えてはならない経系とし、新たな緯系の創出に挑戦してまいりますので、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いします。

明日をもっと、 “こちよく”するために

一人ひとりの行動が、グンゼを動かす。

当社の設立の趣旨は「共存共栄」です。

私たちグンゼグループは創業以来、事業を通して社会に貢献することを
何より大切にしてきました。私たちのミッションを遂行するために、
今年度は本報告書を従業員のための「アクションブック」と位置付けました。

2015年度の活動を振り返るとともに、次の時代のグンゼを創るために、
私たち一人ひとりが何をすべきかを考え、
行動することを誓います！

GUNZE

ブランド憲章

世界の
より多くの人々に
‘こちよさ’をお届けしたい

そのために私たちは
人を想い 暮らしを見つめ
お客さま起点で‘こち品質’を追求します

そして‘毎日のこち満足’を高め
お客さまとともに‘こちよいライフスタイル’を
創造し続けます

ブランド価値向上のための5つの行動

～ お客さまの「こちよさ」のために ～

(姿勢・意識)

1. 私たちは、既存概念にとらわれず、柔軟な発想で「こちよさ」を創出します。

(自己研鑽と挑戦)

2. 私たちは、知識の活用と技術の向上に努め、他にはない「こちよさ」の実現に挑戦します。

(マーケットインによる差異化)

3. 私たちは、お客さまの声に耳を傾け、+αの付加価値により「こちよさ」を追求します。

(ニーズ把握とコミュニケーション)

4. 私たちは、「こちよさ」を科学的にとらえ、お客さまにわかりやすく伝えます。

(鮮度向上)

5. 私たちは、時代やニーズの変化を常に意識し、「こちよいライフスタイル」を提案し続けます。

グンゼを引っ張る、一人ひとりの元気

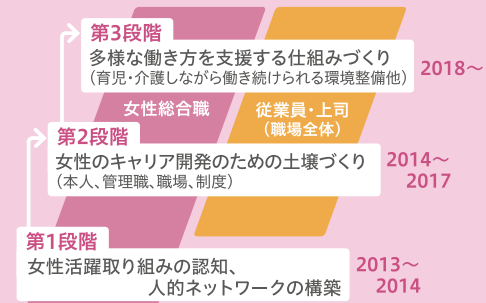
個人のチカラを十分に発揮し
きらきら輝ける働きがいのある
男女フェアな会社を目指す

女性きらきらプロジェクト

2012年にプロジェクトを立ち上げ、女性活躍を推進してきました。

現在は、中長期計画の中の第2段階「女性のキャリア開発のための土壌づくり」に重点化した取り組みを進めています。

女性活躍推進の取り組み段階



こんな活動をしてきました／

人的ネットワークの構築

- 女性きらきらフォーラム
- メンタリング制度
(若手女性メンティと先輩女性メンター)

キャリア開発支援

- 両立のためのサポート面談制度
(育休前後に育休取得者と上司が面談)

両立支援

- 管理職向けの両立Q&Aハンドブック発行
- 両立のための柔軟な勤務体制の試行
(在宅勤務・時差出勤など)



女性きらきらフォーラム

企画担当やデザイナーの意図を
お得意先さまにきちんと
伝えるようにしています！

アパレルカンパニー 営業本部 米田 麻紀

入社時は通販やTVショッピングのオリジナル商品の企画・営業を担当し、仕事の面白さを知りました。半年間の育児休職の後、ボディワイルドの直営店舗の管理とイベントの企画・販促の立案などに携わり、現在はドラッグストアや専門店へのインナーウェアの拡販に取り組んでいます。これまでの経験にとらわれず、常に新しい発想や切り口で商品提案ができるようにしたいです。



お客さまとのコミュニケーションを通して
QOL向上に貢献していきます！



研究開発部 川崎 陽子

入社当時から、当社のアパレル技術には驚くことがたくさんありました。水だけで皮脂汚れが落ちる加工技術、切っても生地がほつれてこない編み技術など…。これらの技術力をよりわかりやすく伝えお客さまからのニーズを研究開発にフィードバックするため、人体生理学と医学の観点から下着の選び方や使い方に関する情報をお伝えする取り組みを進めています。

社員の一人ひとりが、グンゼを良い方向へ導く人財となるように、
全社プロジェクトで個性を発揮できる環境づくりを推進しています。

目標達成への意識を高く持つよう
心がけています！

エンブラ事業部 江南工場 牛田 昌恵

一般職で入社し、6年前に地域総合職に転換、現在は工程管理および生産性改善に取り組んでいます。一般職の女性社員がスキルアップするには、職種にとらわれず、多くの経験を重ねチャレンジすることが重要だと考えています。工場で働く女性社員が目標に向かって一歩を踏み出せるよう、今後も女性きらきらプロジェクトに協力していきます。



社内外の皆さんとグンゼをつなぐ
サイトを通して信頼の輪を広げます！



広報IR室 越川 聖子

主にコーポレートサイトの運営管理業務に携わっています。「企業の顔」であるコーポレートサイトはグンゼとユーザーとの信頼関係を築いていく上で重要な役割を担っています。昨年、一年をかけて、操作性の向上とグンゼへの理解を深めていただくために、全面的なリニューアルを実施しました。コーポレートサイトが当社の顔として「優秀な営業マン」になれるよう育てていきます。

これまでの成果

大阪府女性活躍
リーディングカンパニー認証

「プロジェクトなどの取り組み体制をつくり、女性消費者に向けた商品開発などで業績向上に結び付けている」として認証企業の中から2014年度「優秀賞」を受賞しました。



女性活躍度の向上

	2012年度 (スタート時)	2015年度 (実績)	2017年度 (目標)
「女性が活躍している会社」と 思う社員の割合 ※1	26%	29%	35%
総合職・ 地域総合職に 占める女性比率	15%	21%	25%
新卒・ キャリア採用 ※2	5%	7%	10%
在籍者	1.1%	1.8%	2.9%
管理職に占める 女性管理職比率(人数)	(4人)	(7人)	(10人)

※1 各年の従業員満足度調査結果で「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選択した割合

※2 直近3事業年度の平均値

◆当社では女性活躍推進法に基づく行動計画期間を2016年4月1日～2018年3月31日の2年間としています。行動計画の詳細はこちらでご確認ください。
www.gunze.co.jp/csr/special/womenproject/



これからの活動

これまでに培った女性の人的ネットワークとキャリア意識を糧に、「意欲が高い人の育児・介護によるキャリアへの影響を最小限に抑える」ための取り組みを中心に実施します。

- ◎育休復職者への個別フォローと先輩育児経験者との交流実施
- ◎両立のための柔軟な勤務体制の試行
(在宅勤務・時差出勤など)
- ◎他社リーダー層との意見交換実施によるキャリア意識醸成
- ◎育休復職後も営業部門で活躍し続けるための課題抽出と対策検討
- ◎ATG活動を通じた企画・提案力強化支援

グループ全員が生き生きと
活躍できる職場をつくる

ATG プロジェクト

2013年度より全社プロジェクトとしてスタートしたATG(明るく楽しく元気よく)プロジェクトは全国45事業所で展開中です。初年度は職場の風通しを良くするための課題に取り組みましたが、2014年度から近隣事業所合同のイベントなども開催し、グループとしての一体感が醸成されつつあります。

ATGプロジェクトの目的

1. 経営の基本を固める

企業体質を強くするためには、成長確保と体質強化を両輪に、それを支える無形の経営基盤を強化することが重要。

無形資産のレベル向上と蓄積

ブランド 人財 知的財産 ノウハウ 従業員の
団結力、
活力

2. お客さま満足のためには、 従業員満足が前提

『従業員満足』を高めることが、『顧客満足』の実現につながり、それが『企業価値』の向上につながる。



従業員満足度を高める重要な要素

共感 やりがい 存在を
認め合う

一人ひとりの顔が見える組織を
目指しています!

左から、電子部品事業部 岡本 三千世/エルマ株式会社 稲垣 博美

亀岡では、ファシリテーション研修やにおけアセミナーなどの講習会の他にも、「みんなのことをもっと知りたい」という思いから、写真コンクールを実施。写真の投稿や投票にほぼ全員が参画しました。またリレー式で同僚を紹介した冊子も職場単位で作成。同じ部署でも普段会話をしない人の意外な一面を知ることができ、一声かけやすい雰囲気生まれました。



リレー紹介



互いに関心を持つことが
一体感や連帯感への一歩だと思います!

人事・総務部 曾我 浩幸

さまざまな事業部の営業部門を多く抱える東京支社では長年にわたり、他部署の人との交流が少ないという課題がありました。「+25運動」による業務効率UPで帰れる時には早く帰ろう!」を目標に掲げ、ATGメンバーの「退勤後の過ごし方」を紹介しました。ほかの人たちの過ごし方を見て、退勤後の在り方について考えていただくと同時に、挨拶や会話のきっかけになればと考えています。



退勤後の過ごし方を紹介

従業員満足度の向上は
生産性、品質の向上に
つながっていると実感しています!

山梨物流センター 江端 秀昭

物流業務はマンパワーに拠るところが大きく、一人ひとりのやりがいや従業員満足度が生産性や品質の向上につながっていると考えています。そこで女性が働きやすい職場環境を目指し、従業員同士の対話や定期面談などの時間を十分確保するようにしています。またさまざまな勉強会を開いたり、お互いの情報共有にも力を入れています。



ひまわりプロジェクトにも全員参加



ATGプロジェクトを通じて
多くの気づきや学びが得られました!

左から、研究開発部 辻井 晃子/綾部本社 小林 純子
綾部エンブラ(株) 中西 かよ/レグ物流センター 堀内 由美
メディカル事業部 川口 るみ子

綾部の5事業所のATGリーダーが集まり、「あやプロ」を結成。綾部地区合同の運動会の運営や女性従業員対象の講習会を開催しました。個性の違う5人が同じ目的に向かってアイデアを出し合ったり、関係部署と調整を図る中で、チームワークが生まれ、夢を実現していく楽しさを実感しました。



講習会でのグループワーク



これまでの成果

成果
1

職場の風通し向上

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	目標
風通し満足度	3.22	3.19	3.28	3.30	3.50

2012年度から毎年、従業員満足度調査を実施。職場の風通しは2013年度に低下したものの、2015年度は3.30と2012年度と比べ、0.08ポイント向上しました。(調査は5段階評価)

成果
2

一体感の醸成

綾部地区では事業所単独の活動だけでなく近隣事業所で「あやプロ」を結成し、北近畿エリア合同の運動会や女性従業員のためのキャリア研修会を自ら企画、運営しました。また、東京、大阪地区ではそれぞれ運動会を開催し、毎年家族を含む多くの従業員が参加しています。

成果
3

ATGメンバーの成長

イベント、シャッフルランチ、研修会、写真コンクールなど、ATGメンバーがニーズ調査から企画、運営までを経験することによって、会議の進め方や交渉力、調整力などが自然と身に付き、一人ひとりの成長につながっています。

これからの活動

- 職場の風通し・元気力向上
- 事業所の一体感の醸成
- +25運動※の推進

※「+25運動」には25%をキーワードに、成長確保のために新規取り組みに経営資源を再配分する「+25新規取り組み活動」とそのために費やすマンパワーと時間を創出する「+25リソース創出活動」があります。

社内外の技術を融合し新しい価値を創り出す

エジソン プロジェクト

2014年にスタートした中期経営計画「CAN20」において、全社の既存技術やノウハウ、設備をCFA（クロスファンクショナルアプローチ）活動^{※1}により組み合わせることで新規事業を創造することを目的としたプロジェクトです。

Close up

着るだけで生体情報を計測できる
“スマート衣料”をNECさまの技術支援で実現

ウェアラブル機能製品の開発

当社の既存技術であるアパレル事業のニット技術、快適設計技術、機能ソリューション事業の回路設計技術などの組み合わせにより「快適性のある電子部品」をコンセプトとして、ウェアラブル用素材である導電性ニットを開発しました。導電性ニットは、その形状により生体情報を取得するニット電極やヒトの動きをとらえるニット線材等に応用でき、快適設計や着圧設計された肌着との組み合わせで「衣料型」ウェアラブルとして利用が可能です。この社内技術にNECさまのIoT（Internet of Things）、クラウド解析の外部技術を組み合わせたウェアラブルシステムを、スポーツクラブや従業員の健康管理などに活用していきます。



ウシブル[®]

冷感素材「ラディクール[®]」とウェアラブル素材の組み合わせで、乳牛の暑熱ストレスを軽減するウェアシステム「ウシブル[®]」を開発、実用評価中です。



静電容量タッチセンサー生地

導電性繊維を編み込んだ、柔軟性のある静電容量タッチセンサー生地。一般産業用途に提案中です。

VOICE

社外関係者さまの声



NEC マーケティング・ニュービジネス
本部長代理 長谷川 政行様

IoT時代における新たな価値共創・ビジネス共創を目指して

グンゼさまとは、2015年4月から両社の保有する強みやアセット^{※2}を基に、今後本格化が予想されるIoT時代における新たな価値共創、ビジネス共創を進めていくことができないか、といった観点から議論を始めました。全く異なる知見やノウハウをベースに、ターゲット市場におけるお客さまの課題についての仮説検討や新たな提供価値の定義、その実現方法などについて関連な議論により両社のイメージを具体化しました。そして、2016年1月の「ウェアラブルEXPO」をターゲットにグンゼさまの導電性繊維によるセンシング技術や衣料としての実現方法と、NECのIT・通信技術との擦り合わせを密接に行い、プロトタイプ^{※3}を完成させました。その結果、多くのメディアに取り上げられ、想定以上の反響をいただきました。今後もともに、商用化に向けた取り組みを進め、両社のお客さま満足度の向上に貢献してまいります。

※1 組織の壁を越えて知識や技術など英知を結集し課題解決にあたる活動 ※2 技術資産 ※3 動作や有効性などの確認用試作品

グンゼが持つ強みを生かし、より幅広い分野で社会に貢献できるよう、新たな事業の創出に取り組んでいます。

アパレル技術を活用して健康・医療分野に貢献する

ナイチンゲール プロジェクト

QOL（クオリティオブライフ）の向上に貢献する、新規事業開発を目的としたプロジェクトです。機能ソリューション事業やアパレル事業の持つ技術を活用した、医療および関連製品の開発・販売に取り組んでいます。

Close up

手術後の肌や敏感肌を意識した
肌に負担の少ないインナーを開発

低刺激インナー「MediCure[®]（メディキュア）」

がんなどの手術後や皮膚疾患で肌が敏感になった方に、低刺激下着「メディキュア[®]」を開発、2月より販売を開始しました。医療関係者から肌のために必要な機能を学会でヒアリング、「物理的な刺激が少ない」「化学的な刺激が少ない」「快適性」を実現するために、当社の保有技術を結集させた商品です。発売以降、非常に多くの方から問い合わせをいただきました。病院や診療所とも連携し、効果的な着用方法などの有益な情報をお伝えしながら販売する計画です。今後、特定の悩みを軽減できる製品を「メディカル衣料」として、徐々に製品の領域も広がっていきます。



今後の 取り組み

もっと知ってもらうために

医療従事者や患者の方に、下着の大きさやメディカル衣料のセミナーを開催。

さらに多くの製品を

常に現場の声に着目して、疾患や悩みを軽減できる製品を開発。

直接お客さまに

医療機関にサンプルや冊子を設置、電話やネットでの直販に挑戦。

VOICE

社外関係者さまの声



認定NPO法人 J.POSH
副理事長 平田 享様

アパレル技術のメディカル衣料への拡大に期待します

認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）は、ピンクリボン活動（乳がん啓発）を推進している団体です。その活動方針のひとつに乳がん患者の皆さまへの支援があります。このナイチンゲールプロジェクト、特にメディキュアの製品は、我々が求めている乳がん患者に対するケアという点で、非常に共感いたします。縫い目のない肌着、傷の箇所に応じて、はさみでカットしてもほつれないなど、特に手術後の患者の傷口にやさしい素晴らしい製品であると思います。100年以上にわたって培われたアパレル技術を利用してこのプロジェクトを推進していくことで、乳がん患者だけでなく、より多くの患者の悩みを解決していただきたいと思います。

Mission1 顧客満足の上



一人ひとりの「こちよさ」

120年の
歴史

創業時からお客さまとともに
紡いできました。

戦後間もない1946年からメリヤス肌着の生産を開始。物資が不足し粗悪品が横行する中、当社は「品質第一主義」を掲げ、お客さまに着心地の良い優良品をお届けすることに徹しました。私たちは、これからもお客さまの声にしっかりと耳を傾け、お客さまとのコミュニケーションを大切に、グンゼならではの商品やサービスに結び付けることで、お客さまとともにこちよいライフスタイルを創造します。



初期の裏毛メリヤス商品

Gunze
Action
Number

29,336件

2015年度、お客様相談室に
お客さまからいただいた声

お客様相談室では、お客さまからいただいた声を社内で共有し、次のアクションにつなげられるよう、1件1件、丁寧に対応するよう心がけています。



お客さま
一人ひとりの声が
「こち満足」に
つながっていることを
実感。

お客様相談室 平澤 敦子

お客さまの声を直接受ける部門として、日々電話対応をしています。その内容は、問い合わせ（商品特徴、扱い店舗）・クレーム・苦情・お礼とさまざまです。お客さまとの会話の中の情報が商品企画に生かされると、やりがいを感じます。最近では、婦人物の新しい「快適工房」の品名ラベルの文字が大きくなり、見やすくなったとの褒めの声をいただきました。



インターネット購入でも
「安心のグンゼ」と
感じていただくために。

アパレルカンパニー 営業本部 リテール開発部 岡田 実樹

ネット販売への不安を解消するために、+αの対応で実店舗に負けない温かみのある対応を心がけています。日々のお問い合わせから改善すべき点を見つけ、すぐにみんなで共有して販売画面に反映させています。次もまた買いたくなるよう、初回購入者さまへのフォローは大切にしています。お客さまの要望を聞き逃すことなく、一歩先を予測した迅速な対応で安心のグンゼ通販を目指します。

もっとご要望に
お応えするために！

一人ひとりの声をカタチに



「すべての事象に
謙虚であれ」を
常に心がけています。

アパレルカンパニー インナーウエア事業本部 技術統括部 仲 智

当部署では、お客さまからのお申出情報を基にした改善活動を関連部門と協力して行っています。商品の分析時には「すべての事象に謙虚であれ」を常に心がけています。「謙虚であれ」とは思い込みや経験則から離れ、原因を自責でとらえるということです。これからもお客さま視点で商品を確認するとともに、商品品質に焦点を当て客観的な分析結果を迅速にお伝えするよう努めていきます。



常にお客さま起点で
“こち品質”を
追求しています！

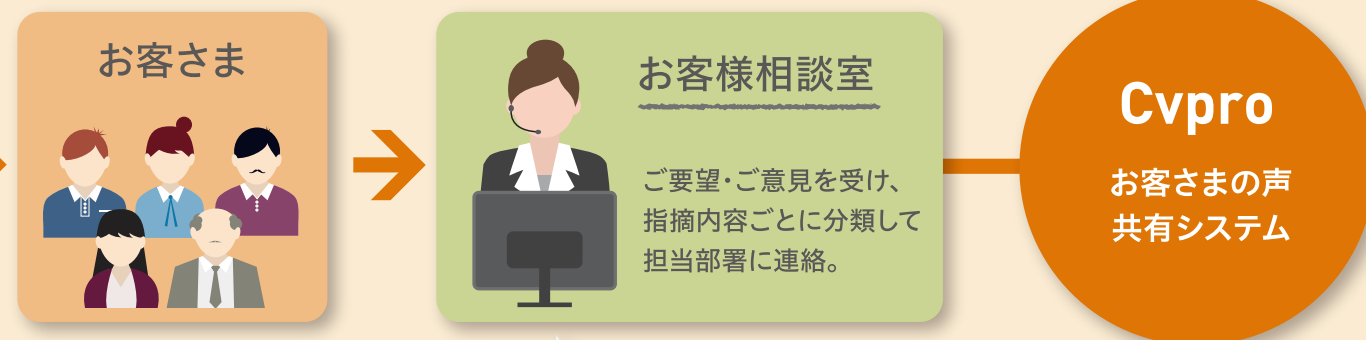
グンゼ物流(株) 山梨物流センター 青柳 恵子

物流の基本方針である「より美しく(品質)、より早く(生産性)、よりこちよく」を追求するために、物流センターでは、何ごともお客さま起点で考え、『次工程はお客さま』をモットーに行動しています。オペレーターの方々が安全で働きやすい職場にするために、日ごろから対話を心がけ、改善提案を受けたらできるだけ早く対応するようにしています。また、何ごととも全員で取り組むことで一体感を醸成したいと考えています。

お客さまの声に耳を傾けよう

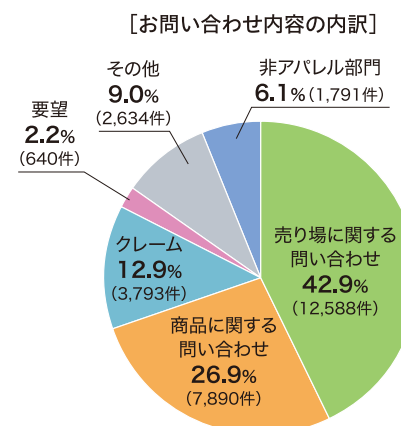
お客様相談室では、「わたしたちはこちよいコミュニケーションを心がけお客さまのこちよいライフスタイル作りを応援します」をミッションに、日々活動に取り組んでいます。お客さまの声に耳を傾け、お客さま視点を持って、自社に対する社会の期待を把握し、その期待を各事業部門の経営戦略に反映させることを目指していきたくと考えます。

お客さまの声を改善に結びつける流れ



2015年度のお問い合わせ件数は**29,336件**(前年比101%)

お客様相談室に寄せられる声の94%がアパレル関連です。どこで販売しているかという売場の問い合わせと商品の内容に関する問い合わせが、約7割を占めています。雑誌、新聞、テレビなどの広告媒体での掲載があると、一定期間にわたり掲載商品の問い合わせが急増します。迅速かつ正確にお客さまにご案内ができるよう、販売・商品企画・広告宣伝部門と連携を取りながら丁寧な対応を心がけています。クレームについても、技術部門・事業部門に、品質改善につながるような情報提供を行い、商品改善につなげています。



改善につながった事例

レディスインナー パッケージやラベルを見やすく変更

“快適工房”をご愛用いただいているお客さまからのお問い合わせやご要望をお客様相談室で集約し、商品リニューアルにあわせ、パッケージやラベルを見やすくしました。

- ①従来のパッケージではわかりづかった商品のイラストをわかりやすく
- ②文字は読みやすいユニバーサルフォントを使用
- ③お問い合わせが多い商品特徴も品名ラベルに記載



ストッキング サンタンブラウンカラーの復活

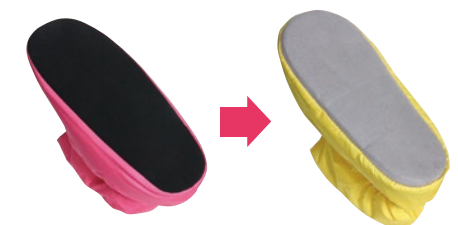
最近のストッキングは淡色が好まれるため濃色の展開を縮小したところ、お客さまからのお問い合わせが急増しました。そこで、長年ご愛用いただいている方々のご要望にお応えし、「サンタンブラウンカラー」を復活しました。



サンタンブラウンカラー

ルームシューズ 足底のカラーの変更

レグウェアの人気商品に、ルームシューズの「ウチコレ」シリーズがあります。2015年秋冬シーズンまで「ウチコレ」のルームシューズの足底はブラックでした。お客さまからの声を受け、2016年秋冬シーズンから汚れが目立ちにくく、色落ちもしにくいチャコールグレーにすべて変更することにしました。



「こちよい」社会づくり



120年の
歴史

会社をめぐるすべての関係者との
共存共栄をはかる。

創業者は従業員を我が娘と思い、読書、算術、習字、裁縫などが学べるよう郡是女学会を開きました。当時、社外の人から「郡是は表から見れば工場、裏から見れば学校」と言われていました。また、会社のマーク「◎」は創立20周年に定められたもので、中の丸は会社、外の丸は取引養蚕家を表し、会社と養蚕家の共存共栄という会社の精神を表したものです。その精神を今も受け継ぎ、すべてのステークホルダーとの共存共栄をはかるために、私たちは積極的に社会、地域活動に参加し、社会との友好な関係を築きます。



1917年に設立した郡是女学校の授業風景

2015年度被災した方々へ グンゼグループが支援した総額

2015年度も多くの災害が発生しました。グンゼグループでは肌着や人工皮膚など当社製品を提供するとともに、社内で義援金活動を実施し、集まった金額と同額を会社からも寄付することで、少しでも皆さまのお役に立ちたいと考えています。

Gunze
Action
Number

31,195,396円

個人で参加できる活動

一人ひとりの善意を束ねて社会を支える力に

グンゼラブアース倶楽部

グンゼラブアース倶楽部は、グンゼ創立110周年記念の社会貢献事業として2006年に発足し、2016年に10周年を迎えます。会員から募った寄付金と会社のマッチングシステムによるNPO団体などへの寄付や、協働事業を通じて社会に貢献しています。2015年度は、14団体への寄付[20万円×13団体、20万円相当の肌着×1団体 合計280万円]と、海外の子どもたちに3団体を通じて2,200枚の肌着を送りました。



グンゼラブアース倶楽部マーク

支援先さまからの声／特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
パレスチナ事業担当 並木 麻衣様

いつも温かいご声援を本当にありがとうございます。JVCは設立から35年間、世界中で人道支援・地域開発活動を続けてきました。今回ご支援いただいたパレスチナ・ガザでは、5歳以下の子どもの4割が貧血と言われる中、栄養失調を防ぐため奔走する人々に寄り添っています。30人の女性ボランティアがアマチュア栄養士としての知識とスキルを身に付けた後、地元の家々で保健の知識を広め、子どもたちの健診を実施。栄養状態は着実に改善されています。「地域の役に立てて嬉しい」と笑顔で語り、精力的に活動する彼女たちに触れると、現地の資源や人々のパワーを大切にする支援の意義をあらためて実感します。



2015年度グンゼラブアース倶楽部支援先（団体名）

国境なき子どもたち	シャブラニール	森は海の恋人	かものはしプロジェクト
日本クリニックラウン協会	ACE	CIVIC FORCE（シビックフォース）	ブリッジフォースマイル
ロシナンテス	エイズ孤児支援 NGO PLAS	関西盲導犬協会	
アムダ（AMDA）	NPO カタリバ	日本国際ボランティアセンター	

もったいない活動

身近な社会貢献活動として、エコキャップやプルタブなどを回収し、NPOなどへ送る活動を続けています。

エコキャップ	2,717,709個	プルタブ・アルミ缶回収	1,933kg	使用済み切手	200,583枚
書き損じはがき	1,651枚	古本	6,077冊 (88,709円相当)	使用済みカード	428枚

注：2007年～2015年度累計

災害被災者支援活動

■義援金活動

従業員からの義援金と同額を会社がマッチングし、各団体を通じて寄付しています。

義援金対象	従業員	会社	合計	送金先
2015年4月ネパール地震	292,224円	292,224円	584,448円	日本赤十字社
2015年9月台風18号による被災	250,647円	250,647円	501,294円	中央共同募金会
2016年2月台湾地震	236,288円	236,288円	472,576円	日本赤十字社

2016年4月に熊本地方で発生した地震の際、肌着や弾性ストッキングなど約14万枚を支援しました。グンゼグループでは被災地の一日も早い復旧を願っています。

■救援物資

台風18号(9月)の際、茨城県に肌着などを送りました。

アイテム	枚数
肌着	3,200枚
ソックス	1,800足
パジャマ	1,768着

海外へも広がる社会貢献

日本赤十字社を通じて台湾へ人工皮膚を寄贈

2015年6月、台湾の音楽イベント中に粉塵爆発事故が発生し、約500名が負傷する大惨事となりました。約185名の火傷患者に人工皮膚移植が必要となる中、当社は日本赤十字社からの依頼に即応し、約2,200万円相当の人工皮膚（製品名：ペルナック）を寄贈しました。台湾に派遣された日本の医師の指導の下、台湾の医師が実際に人工皮膚を用いた手術を行い、有用性を実感いただきました。2016年1月、日本赤十字社を通じて台湾の三軍總醫院（病院）から寄せられた感謝状をいただきました。



©台湾赤十字

海外の子どもたちへ肌着支援

グンゼラブアース倶楽部の剰余金を活用し、海外の子どもたちに合計2,200枚の肌着を寄付しました。セーブ・ザ・チルドレンさまを通じて肌着を送ったベトナムの山村では、夏の汗対策として、とても喜んでいただきました。また、ACEさまを通じてインドに送った肌着は衛生教育の一環としてご活用いただきました。



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

カンボジア水泳協会にプール備品を寄贈

2016年2月、カンボジア水泳協会（正式名称：Khmer Swimming Federation(KSF)）にGUNZE SPORTS (CAMBODIA) Co., Ltd. よりプール備品を寄贈しました。カンボジアでは小学校から高校を通して、体育の授業もほとんど行われておらず、プールで泳いだことのない子どもたちがたくさんいます。水泳をどのように普及していくかについて教育省とミーティングを重ねており、今後の展開に国からも期待が寄せられています。水泳協会からの感謝状授与の様子は地元紙でも紹介され、水泳協会会長のスンチャントール商業省大臣から「グンゼスポーツはカンボジアにおける水泳普及に確実に貢献するだろう」とのお言葉をいただきました。今後もカンボジアの水泳普及のお役に立てるよう、協力していきたいと思います。



地域・各種団体との協働

あやべグンゼスクエア

あやべ特産館、綾部バラ園、グンゼ博物苑からなる『あやべグンゼスクエア』は綾部市の重要観光拠点として位置付けられています。博物苑にある集蔵は、文化、芸術、教育、福祉を目的とする展示会などにご利用いただいています。120周年を機に2016年5月には道光庵（創業者波多野鶴吉の居宅）もスクエア内に移築し、博物苑にある創業蔵をリニューアルしました。今後も綾部市の行事やあやべ特産館の各種イベントの開催に協力していきます。



地域清掃活動

全国の事業所で周辺の清掃活動を実施しています。滋賀県にある守山事業所では、琵琶湖湖岸の「ごみゼロ(530)大作戦」に毎年参加。また兵庫グンゼでは、加古川市の「まち美化プロジェクト」に参加。事業所周辺の道路の清掃活動を月1回実施しており、その活動が10年を経過したことを受け、2016年2月23日に加古川市から感謝状をいただきました。今後も各事業所で地域に密着した活動を積極的に推進していきます。



高校生対象のキャリア研修

研究開発部では、2014年度から立命館守山高校の2年生を対象に職場体験実習や座談会を実施しています。フィルム製造ラインの見学、500円玉表面の顕微鏡観察、ペットボトルのシュリンクラベル装着、立体タッチセンサーでのラジコンカー操縦など、多くの実習を体験してもらい、アンケートでは「進路選択の参考になった」などの回答をいただきました。



福島ひまわり里親プロジェクト

“福島ひまわり里親プロジェクト”とは、「福島県に『震災復興のシンボル』としてひまわりを植えよう!」という活動です。プロジェクトの趣旨に賛同し、2012年から里親（全国の事業所）のもとで育てたひまわりの種を集めて福島に届けています。2015年度は全国の19事業所が参加。約8kgの種を福島県に送付し、特定非営利活動法人「チームふくしま」から感謝状をいただきました。今後もひまわりの栽培と種の採取を通して福島を応援していきます。



50年、100年先を見すえて 今すべきこと



120年の 歴史

創業時から自然とともに歩んできました。

グンゼは桑や繭といった自然の恵みや地域との共存共栄を目指して製糸業からスタートしました。1974年には養蚕農家の協力を得て緑化事業を立ち上げ、現在も樹木や花類の販売を通じて、緑化に取り組んでいます。生産圃場で育った植物を公園・街路・マンションなどの植栽現場へお届けすると、生産圃場では新たな植物の植付けが行われます。このサイクルを繰り返すことにより、緑豊かな環境づくりに貢献します。



グンゼスポーツ京都八幡店

Gunze
Action
Number

約500万本
約80万㎡

2015年度お客さまに お届けした樹木・芝生

お届けした植物が100年先まで生長し、次世代の生活を見守り続けてくれるよう、樹木・花類の拡販に努めるとともに屋上・壁面緑化などの新たな緑の創出を提案し、CO₂の削減や都市部のヒートアイランド現象の軽減に貢献していきます。



育んでいきたい環境活動の芽



環境配慮製品の開発

メカトロ事業部 営業部 中地 一晃／平野 聡一

流通リターンブルケースの洗浄分野では、洗浄力を洗剤に依存することが多い中、メカトロ事業部では、スイング方式の採用とノズルの自社開発により、洗剤を使わなくても高い洗浄力を発揮できる洗浄機を製造・販売しています。洗剤レスだけでなく、省エネにも特化したこの洗浄機は、2015年4月に生産性向上設備促進税制の対象に認定されました。今後も環境負荷を低減する技術の開発に努めていきます。

工場へお客さまをお招きし、出荷前の洗浄機でプレゼンを実施。

廃棄物の再利用

津山グンゼ(株) 中村 公美

津山グンゼではマシン系生産過程で年間300トンの廃棄物が発生し、多額の処分費用が発生します。そこで、「+25運動」※で創出した隙間時間を利用して木製パレットを解体し、近隣の温泉の燃料として再利用してもらう有利処分ルートを構築しました。また、保存期限切れの機密書類も近隣の製紙会社のリサイクルに持ち込んでいます。今後も環境負荷低減のために自分たちでできることを探し、取り組んでいきます。

※8ページを参照ください。



パレットも自分たちで切断し、搬入。



子どもたちも参加。

里山保全活動

CSR推進室 入江 教夫

グンゼグループは京都府が推進する「京都モデルフォレスト運動」に賛同し、2010年よりグンゼ創業の地である綾部市の森を守り育てる活動に取り組んでいます。2015年度、グンゼが取り組む「京都モデルフォレスト運動 in 綾部」の里山保全活動が、従業員や地域社会を含めた広がりのある活動であると評価され、「京都モデルフォレスト協会理事長賞」を受賞しました。

アクションプラン

(対象:国内事業所)							
項 目	基準年度 実績値	2014年度 実績	2015年度 目標	2015年度 実績	目標 達成状況	2016年度 目標	備 考
CO ₂ 排出量(t)	98,288(1990年)	104,941	103,904	99,197	○	98,205	電気事業者別の CO ₂ 排出係数により算定
CO ₂ 排出量(原単位) (t/売上・億円)	84.7(2010年)	96.3	95.3	91.4	○	90.5	
運送エネルギー(kℓ/t)	40.0(2006年)	33.4	32.8	31.3	○	31.0	
廃棄物	総発生量(t)	10,234(2004年)	8,855	8,720	○	7,908	
	排出量 ^{注1} (t)	5,127(2004年)	2,002	1,980	○	1,880	
	リサイクル率(%)	69.0(2000年)	97.2	99.0	△	99.0	
用水使用量(千m ³)	5,996(2002年)	3,732	3,600	3,580	○	3,434	
PRTR ^{注2} 対象物質取扱い量(t)	383(2000年)	87	85	124	△	122	
グリーン購入率(事務用品)(%)	99.0(2008年)	98.7	100	98.5	△	100	事務用品56品目を選定、 国内38事業所にて実施

注1: 廃棄物の排出量:事業所から廃棄物として廃棄物処理業者に委託したもの(リサイクル品を含む、有価物を除く)

注2: 有害化学物質が環境中にどの程度排出されたか、あるいは事業所外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組み

目標達成状況の自己評価 ○ 達成 △ 未達成

2015年度版CSR報告書掲載のデータに一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

環境会計

環境保全活動の一環として、環境省の「環境会計ガイドライン」に基づき環境会計を公表しています。2015年度の環境保全コストは、投資額44百万円、費用額が747百万円となりました。2015年度は、水質汚濁防止や省エネ温暖化防止対策への投資を行いました。費用額とは、主に人件費や設備の修繕費、設備運転のためのコストです。

<集計の基本となる事項>

- [対象範囲]

グンゼ株式会社、国内グループ会社22社および海外グループ会社16社
- [対象期間]

国内グループ会社 2015年4月1日～2016年3月31日
海外グループ会社 2015年1月1日～2015年12月31日
- [項目分類]

環境省「環境会計ガイドライン」に沿って分類・集計
- [経済効果]

廃水処理実施効果とは、廃水処理設備設置による下水道費の削減額。特定の環境対策を行わなかった場合、想定される賠償額などのリスク回避効果(みなし効果)は採用していない。

●環境保全コスト(海外含む) (単位:百万円)

項 目		2014年度		2015年度	
		国内		国内	
		投資金額	費用額	投資金額	費用額
環境 保全 コスト	公害防止対策	16	234	13	196
	地球環境対策	39	171	24	165
	資源循環対策	104	183	7	201
上下流コスト		1	28	0	24
管理活動コスト		4	103	0	92
研究開発コスト		0	14	0	54
社会活動コスト		1	7	0	7
その他コスト		0	9	0	8
合 計		165	749	44	747

●環境保全に伴う経済効果(海外含む) (単位:百万円)

項 目	2014年度	2015年度
廃棄物処理の節減効果	239	220
資源削減効果	70	49
省エネルギー効果	258	183
廃水処理実施効果	288	270
コージェネ効果	10	10
合 計	865	732

事業活動に伴う環境負荷の低減

地球環境との共存共栄をはかるため、事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、環境負荷の低減とともに、環境に配慮した商品・サービスの提供に努めています。

INPUT

エネルギー

	国内	海外
エネルギー(kℓ)[原油換算]	45,554	17,217
電気(千kWh)	115,945	49,061
重油(kℓ)	5,714	210
軽油(kℓ)	0	718
灯油(kℓ)	60	0
LPG(t)	403	684
LNG(t)	863	0
都市ガス(千m ³)	6,811	2,403

用水(千m³)

	国内	海外
合 計	3,580	688
河川水	384	0
市水	457	172
地下水	2,507	11
工業用水	232	505

化学物質 (PRTR対象物質) (t)

	国内
合 計	124

主要原材料(t)

	国内	海外
合 計	42,521	19,889
天然繊維	2,260	3,944
合成繊維	3,015	4,832
樹脂	16,984	9,087
フィルム	20,208	1,845
ガラス	38	114
鋼材	16	67

資材(t)

	国内	海外
合 計	2,584	3,397
副資材	1,135	548
荷材・包材	1,449	2,845
その他	0	4

事業活動のプロセス

資料調達

研究開発

生産

製品

物流

お客さまへ

OUTPUT

地球温暖化物質 (CO₂排出量) (t)

	国内	海外
合 計	99,197	29,307
生産からの排出	98,655	28,379
社用車からの排出	542	928

大気汚染物質(t)

	国内	海外
NOx	30.1	6.7
SOx	6.6	0.9
ばいじん	1.1	—

化学物質 (PRTR対象物質) (t)

	国内
合 計	69.1
廃棄物としての移動	30.5
環境への排出量	38.6
大気への排出:30.4 水系への排出:8.2 土壌への排出:0	

水質汚濁物質

	国内	海外
廃水量(千m ³)	912.4	168.9
BOD (t)	3.8	0.4
COD (t)	16.3	3.6
SS (t)	5.2	1.1

廃棄物総発生量(t)

	国内	海外
合 計	7,988	1,818
焼却・埋立処分量	355	132
リサイクル量	1,544	41
有価物量	6,089	1,645
リサイクル率	95.6%	92.8%

製品(t)

	国内	海外
合 計	41,675	18,829
繊維	5,836	8,707
フィルム	30,746	10,051
印刷物	3,520	0
その他	1,573	71

従業員一人ひとりが働きがいと誇りを感じ、能力を最大限発揮できる職場づくりに努めています。

労働安全衛生・人財開発

安全で快適な職場環境づくり

労働災害

労働災害ゼロの「安全で働きやすい快適な職場づくり」を目指して活動を推進しています。具体的には、リスクアセスメントを通じた労働災害発生リスクの低減・安全作業教育の強化、従業員一人ひとりの安全意識を高めるための取り組みなどを、安全衛生委員会を中心に推進しています。

■労働災害発生状況(グンゼグループ全体)

	労働災害	
		内休業災害
2013年度	27	11
2014年度	25	10
2015年度	34	10

メンタルヘルス

メンタルヘルス不全者の発生を防止するために、管理者のラインケア研修・心の電話相談窓口による相談対応を推進しています。今後は、ストレスチェックの実施(法的に実施が義務化されていない50人未満事業場も含めて実施)により、従業員自身に自分のストレス状態を把握してもらった上で、産業医等と連携して職場分析の実施・高ストレス者への相談対応などを推進していきます。

多様な人々が働きやすい職場づくり

障がい者雇用の推進

「法定雇用率の達成」を基本に、継続的な障がい者雇用機会の維持・創出に取り組んでいます。具体的には、各事業所の障がい者雇用推進者を中心に、受け入れ可能な職場・職務などを特定した上で、地域のハローワークとも連携しながら職場・職務とのマッチング・職場への適応支援などを推進しています。

■障がい者雇用率(グンゼ単体)

2014年3月20日現在	2.27%
2015年3月20日現在	2.39%
2016年3月20日現在	2.28%

両立支援

2015年度は当社で初めて男性が育児休職を取得しました。年々「育児のための短時間勤務」の利用者も増え、仕事と育児を両立する人が増えています。今後も、育児休職の前後に上司によるサポート面談を実施し、情報共有を図ることで職場の体制を整備するなど、両立支援に取り組んでいきます。

■育児・介護支援制度の取得状況(グンゼ単体)

	2013 年度	2014 年度	2015 年度
育児休職取得者	52	41	48
育児の短時間勤務利用者	60	63	69
子の看護休暇取得者	29	25	21
介護休職取得者	3	1	2
介護の短時間勤務利用者	0	0	1
介護休暇取得者	0	1	1

意欲のある人財を育成する仕組みづくり

人事処遇制度の改定

「評価のオープン化」および「評価の納得性の向上」をねらいとして、2016年4月より人事処遇制度を改定しました。具体的には、これまで非公開にしていた評価のしくみや基準を「人事考課のしくみ」にまとめ、全従業員に公開しました。また、評価のしくみに関して複雑でわかりにくい部分の見直しや、フィードバックや育成指導に活用しやすい「行動評価」の導入を行いました。今回の改定により、評価に対する理解が深まり、より大きな目標や新しい取り組みへのチャレンジ意欲が高まることで、従業員一人ひとりの能力・成果の発揮を目指していきます。

一般職の研修充実

一般職の業務スキル向上とキャリア形成に対する意識向上をねらいとして、各資格の研修を拡充しました。具体的にはすべての資格において研修会を整備し、論理的思考力やコミュニケーション力を強化するとともに、各資格別に、業務推進力、課題解決力、リーダーシップ力などを高めるカリキュラムを充実させました。これらの集合研修で習得したことがそれぞれの職場で実践できるよう、管理職の部下育成力やマネジメント力の向上にも力を入れています。

ハラスメントのない職場づくり

ハラスメント発生防止のために、事業所における研修や新任のハラスメント相談窓口担当者を対象とした実践研修を毎年実施しています。ハラスメントの行為者は無自覚であることが多く、被害の相談・通報がないと放置されエスカレートする恐れがあります。そこで、ハラスメント相談窓口の周知に努めるとともに、ハラスメントの発生率が高い事業所については、部門責任者とCSR推進室が連携して、ハラスメント防止研修会やコミュニケーション研修会を開催しています。

■「従業員満足度調査」結果より

	2013 年度	2014 年度	2015 年度
私は、過去1年間において、「セクシュアル・ハラスメント」の被害を受けたことがある	2.7%	2.4%	2.7%
私の所属している部署では、過去1年間において、「セクシュアル・ハラスメント」の被害があった	4.5%	3.5%	3.6%
私は、過去1年間において、「パワー・ハラスメント」の被害を受けたことがある	9.1%	7.6%	7.9%
私の所属している部署では、過去1年間において、「パワー・ハラスメント」の被害があった	12.2%	10.1%	11.1%

従業員の状況 2016年3月31日現在

	グンゼ単体			連結合計
	男性	女性	合計	
人数	1,241人	601人	1,842人	6,858人
平均年齢	44歳 05カ月	41歳 11カ月	43歳 07カ月	
平均勤続年数	20年 11カ月	18年 10カ月	20年 03カ月	

社会から信頼される企業として活動し続けるため、グンゼは組織的なマネジメントを徹底します。

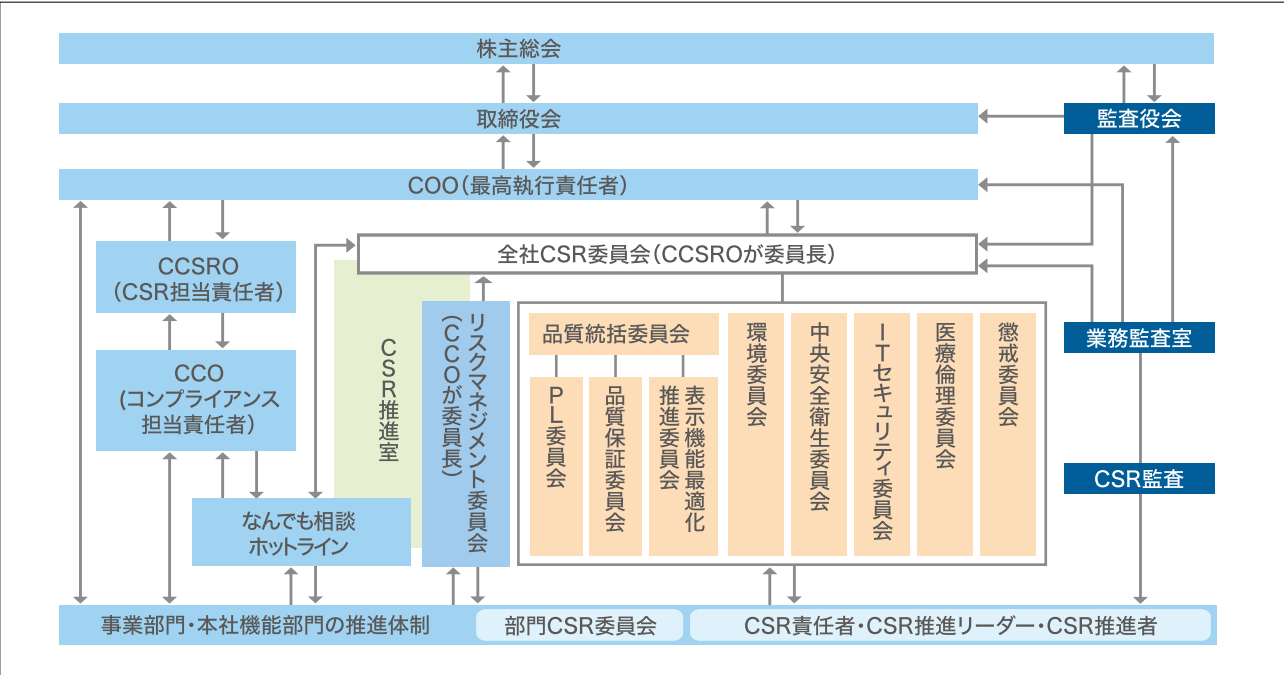
内部統制システム

基本的な考え方

当社グループは「内部統制システムの整備に関する基本方針」を制定し、内部統制システム、リスク管理体制などの整備に努めています。今後も体制の整備・充実を図るため、当社グループ構成員の具体的な行動指針として制定した「グンゼ行動規範」の周知徹底およびCSRへの取り組みを強化していきます。

CSR推進体制

当社グループのCSRへの取り組みを強化するため、CSR推進室を設置し、CCSRO（CSR担当責任者）を任命するとともに、特に法令遵守と企業倫理の確立を図るためにCCO（コンプライアンス担当責任者）を任命しています。また、「CSR規程」「コンプライアンス規程」に基づき、組織横断的に統括する組織である「全社CSR委員会」（委員長：CCSRO）を設置し、法令遵守のための体制強化を図っています。



全社CSR委員会

CCSROを委員長、CSRオフィサー*をメンバーとし、全社横断的にCSR推進事項および課題への対策を審議しています（監査役およびグンゼ労働組合委員長もオブザーバーとして参加）。なお、全社CSR委員会の下部組織には次の3つの委員会を設置しています。

*CSRオフィサー：各カンパニー長、事業部長、機能部門長、関係会社社長、機能部各室長など

1. リスクマネジメント委員会

CCOを委員長、本社機能部門長をメンバーとして、グループ全体のリスク案件について情報共有を図り、発生防止策などについて検討しています。

2. 各種専門委員会

環境、PL、安全衛生、ITセキュリティ、品質保証、医療倫理の専門委員会を設置し、各専門委員会がそれぞれ所管するリスク管理を行っています。各専門委員会が洗い出したリスクは全社CSR委員会で審議し、重要リスクの優先順位付けならびにリスク管理方針を決定しています。

3. 部門CSR委員会

各事業所に部門CSR責任者*1、CSR推進リーダー*2を設置し、事業所におけるCSR活動を推進しています。なお、毎年、部門CSR責任者会議、CSR推進リーダー会議を開催し、活動のレベルアップを図っています。

*1 営業部門長、工場長、関係会社社長など
*2 各事業所のCSR推進担当者

リスク管理

全社CSR委員会の下部組織として、リスクマネジメント委員会を設置し、グループ全体のリスクについて協議しています。2015年度は19件の事案を取り上げ、対策、再発防止策などを協議しました。その内容は、全社CSR委員会、部門CSR責任者会議、CSR推進リーダー会議で共有し、各部門でのリスクマネジメントにつなげています。2015年度はCCSRO以下関係者を対象に、緊急事態シミュレーショントレーニングを実施し、大阪大学 青江教授よりご指導いただきました。

■リスクマネジメント委員会で協議した課題一覧（委員会報告案件）（年間件数）

内 容	2014年度	2015年度	内 容	2014年度	2015年度
情報セキュリティ	2	2	人権問題	0	0
海外リスク	6	3	表示不適切	2	0
自然災害	1	0	火災	3	2
施設事故	2	1	環境	2	1
重大労災	11	8	その他	2	2
個人情報取扱不備	1	0	合 計	32	19



大阪大学 知的財産センター
センター長 青江 秀史様

単なるリスク管理ではなく、リスクを予想しマネジメントすることで経営に資することを目標に、緊張感がありながら臨場感あふれる活発な意見交換がなされた。特に児玉社長の現場・顧客第一主義に勝るとも劣らない服部CCSROのリーダーシップは見事であった。今回はリスク発生後の緊急記者会見シミュレーションであったが、最も大切な情報開示の時間軸（タイムマネジメント）について、記者すなわち顧客や社会と同じ軸を持つことを徹底されたことは称賛に値する。また、とかくリスク発生時には責任逃れの風潮があるが、担当セクションの対応は正にキラキラと輝いていた。今後もこの方向で明日をもっと「ここちよく」を推進していただきたい。

今後の課題

情報資産管理

保有する「情報資産」を積極的に活用または保護するために、「情報資産」を分類・体系化し、管理体制を整備しています。経営戦略室、知的財産室、IT戦略室、人材開発室、CSR推進室が連携し、不正な侵入、漏えい、改ざん、紛失・盗難、利用障害などが発生しないように人的・組織的・技術的・法的施策を講じるとともに、各種階層別研修などを通じて、従業員教育にも力を入れています。

相談・通報への対応

内部通報窓口として「なんでも相談ホットライン」をCSR推進室に設置しています。相談内容は問い合わせから通報までさまざまです。最近では、当社ホームページの問い合わせ窓口を通じての通報・相談も増えてきています。公益通報者保護規程に則り、個人のプライバシーに配慮しつつ慎重に対応しています。「なんでも相談ホットライン」で受け付けた内容については、毎月、CCSRO、CCO、監査役に報告。四半期に一度COOに報告しています。

■相談・通報内容の内訳（年間件数）

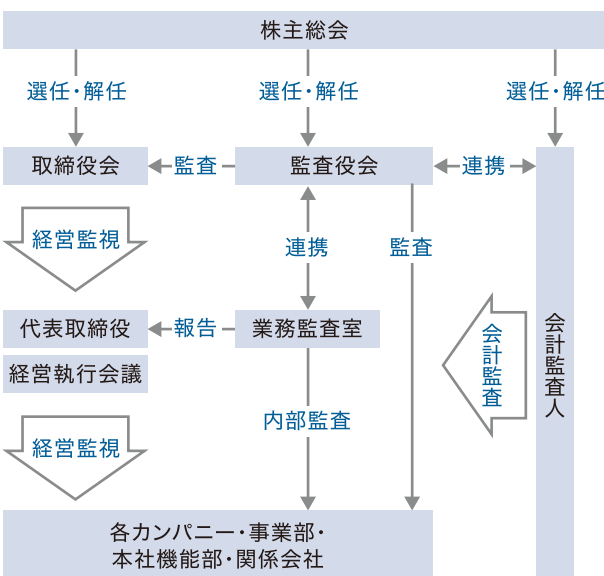
相談項目	2014年度	2015年度
職場の人間関係	22	9
セクシュアル・ハラスメント	2	2
パワー・ハラスメント	0	1
職場の規律、コンプライアンス	1	8
メンタルヘルス	0	2
労働時間管理	1	2
その他	9	7
合 計	35	31

コーポレートガバナンス

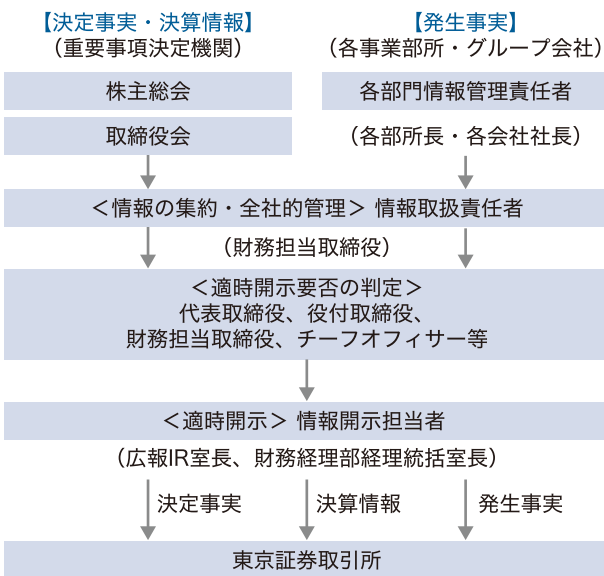
基本的な考え方

当社グループは、企業価値を継続的に増大させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示に努めています。経営の透明性向上を図ることによって株主価値を高めることを経営上の最も重要な課題の一つであると考え、その実現のために、各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、内部統制機能の強化・整備を図りながら、コーポレートガバナンスの充実に努めていきたいと考えています。

コーポレートガバナンス体制



適時開示體制



經營執行體制

当社は監査役会設置会社です。現行の経営体制は、社外取締役2名を含む取締役12名（うち女性1名）です。また、迅速な意思決定および業務執行体制の強化を図るために、執行役員制度を導入しており、取締役兼務者7名を含む執行役員17名を選任しています。なお、経営責任の明確化を図るとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制とするため取締役および執行役員の任期は1年としています。取締役会は原則として月1回開催しており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しています。これと併せて、チーフオフィサー8名等で構成される経営執行会議を概ね週1回程度開催し、業務執行に関する重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化を図っています。

●社外取締役

2名の社外取締役は社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から、取締役会において助言・提言を行うとともに、経営トップおよび取締役等と経営に関する意見交換を実施するなど、当社のコーポレートガバナンスが有効に機能することに寄与しています。

●監査役・監査役会

監査役会は社外監査役2名を含む監査役4名で構成しています。監査役は取締役会、経営執行会議等の重要会議への出席、当社事業部門・管理部門への監査、国内外の子会社調査等を実施し、経営への監視機能を果たしています。

●会社情報の適時開示に係る社内体制

当社は企業価値を継続的に向上させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示を通して、経営の健全性・透明性の向上を図っています。

CSR活動を活性化するために

● CSR活動優良事業所表彰

当社グループでは、各事業所に部門CSR推進委員会を設置し、CSR活動を推進しています。
毎年、各部門の活動を表彰することにより、部門の活動を称えとともに、CSR推進リーダー会議などで共有し、CSR活動の活性化につなげています。

[工場部門]

第1位	メディカル事業部	合計	83.4点
第2位	綾部エンプラ	合計	80.1点
第3位	東北グンゼ	合計	78.0点
第4位	梁瀬工場	合計	76.2点
第5位	電子部品(亀岡)	合計	72.1点

工場部門1位:メディカル事業部

評価ポイント

CSR研修会を開催するなどCSRの全分野において、精力的に取り組み、事業部としての一体感を醸成している。また、もったいない活動においてもダンボールなどの寄付を実施し、環境に優しい職場づくりを続けている。

[オフィス・サービス部門]

 **第1位** **綾部本社**(本社、レッグ物流等) 合計**86.4**点

第2位 **研究開発部 京都(含QOL研究所)** 合計**82.4**点

第3位 **山梨物流** 合計**81.1**点

第4位 **西宮物流** 合計**80.1**点

第5位 **グンゼ開発グループ** 合計**75.0**点

オフィス・サービス部門 1 位: 綾部本社(本社、レッグ物流等)

評価ポイント

綾部地区のATG活動の取りまとめ役として一体感の醸成や活性化に貢献している。近隣の清掃活動や、京都モデルフォレスト運動への参加など地域貢献活動も活発である。

● CSR研修の開催

グンゼの経営理念である「創業の精神」を実践するため、全構成員に経営理念や行動規範を掲載した小冊子「グンゼの是」を配付。CSRの各種会議において、階層別に研修を実施し、企業倫理とは何かを考え、コンプライアンスを実践する風土の醸成に努めています。また、事業所においても、ATG活動の一環としてコミュニケーション研修やハラスメント防止研修を実施し、風通しの改善に取り組んでいます。



■2015年度実績

研修会名	テーマ・内容	対象者	人数
経営幹部研修会	コーポレートガバナンス	CSRオフィサーなど	27
経営トップCSRセミナー	ESGの動向、企業倫理の実践	CSRオフィサーなど	40
情報・知的財産管理	営業秘密管理	部門CSR責任者	38
グローバル時代のリーガルリスク	ESG、グローバルリスク、コンプライアンス	部門CSR責任者	38
コンプライアンス基礎研修	コンプライアンスの基礎	CSR推進リーダー	41
新入社員集合研修	CSRの基礎	2015年度総合職新入社員	30
4年目社員集合研修	CSRの実践	2012年度総合職新入社員	16
新任管理職研修	コンプライアンスの実践	新任管理職	18
事業所での研修	風通し向上、ハラスメント防止など	構成員	444



グンゼグループCSR報告書2016 第三者意見

経営倫理実践研究センター 主任研究員
日本経営倫理士協会 理事
ウェルネス・システム研究所 代表

村松 邦子様

グンゼグループCSR報告書2016は、CSR活動の担い手である従業員との対話を重視し、「CSR ACTION BOOK」としてグンゼが優先的に取り組むテーマを丁寧に伝えています。網羅性の高い詳細な情報については、同社CSRウェブサイトで構造的に開示し、全体としてグンゼが何を基軸とし、どこに向かっているかがわかりやすい報告内容となっています。

1 評価したいポイント

〈創業の精神を基軸とした自律型CSRへ〉

グンゼは2016年度に120周年を迎えるにあたり、「人間尊重と優良品の生産を基礎として会社をめぐるすべての関係者と共存共栄をはかる」という『創業の精神』に立ち返り、トップコミットメントとともに従業員一人ひとりが「次の時代のグンゼを創るために何ができるか考え自ら実行する」ことを宣言しています。同社では、これまでも「CSR活動優良事業所表彰」や「CSR検定」など従業員の自発的なCSR活動を深耕する取り組みを継続してきましたが、一人ひとりのミッションと行動に焦点をあてた「アクションブック」には同社の創業の精神を基軸とした自律的なCSR活動のさらなる進化と決意が感じられます。

〈活力あふれる職場づくり〉

優先的に取り組むプロジェクトの活動報告においては、「多様な人財が個性を発揮できる環境づくり」「お客様満足のためには、従業員満足が前提」という企業姿勢が表れています。2012年にプロジェクトを立ち上げ、中長期計画の第2段階「女性のキャリア開発のための土壌づくり」に取り組んでいる「女性きらきらプロジェクト」。2013年度より全社プロジェクトとしてスタートした「ATG（明るく楽しく元気よく）プロジェクト」。これまでの取り組みの成果や今後の活動計画を、従業員の活き活きとしたメッセージとともに伝えています。継続的な活動と経年の報告は中長期計画の実効性につながることで評価できます。

〈価値共創による社会への貢献〉

グンゼは2014年に「グンゼが持つ強みをさらに強化し、グンゼにしかできない“こちよさ”をお客さまに提供するグローバル企業

として社会に貢献する」という経営ビジョンを打ち出し、人々のクオリティオブライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野を核とした事業拡大に取り組んでいます。

昨年度の報告書で紹介されていた新規事業創出のためのCFA(クロスファンクショナルアプローチ)活動の成果として、着るだけで生体情報を計測できる「スマート衣料」の開発、肌に負担の少ない「低刺激インナー MediCure(メディキュア)」の開発などが社外関係者の声とともに報告されており、同社の強みを生かした社会課題の解決への共創に大きな可能性を感じました。

2 今後のCSR活動への期待

昨年のCSR報告書2015にて、「国際的な基準やガイドラインを活用し、自社のCSR活動の整理、課題を再確認すること」を提言しました。今年度のCSR活動報告では、CSRウェブサイトに「ISO26000との対照表」が掲載され、「アクションブック」では「顧客満足の向上」「地域社会への貢献」「環境負荷の低減」を重点項目とした報告が行われています。

2014年から2015年にかけては、日本版スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの導入、国際社会が達成に向けて取り組む「持続可能な開発のための2030アジェンダ/SDGs」の採択など、国内外で持続可能な社会づくりに向けた枠組みづくりが進んでいます。

グンゼグループが「グローバル企業として社会に貢献する」ためには、活動・報告対象を海外子会社、サプライチェーン全体まで広げ、これまでの取り組みと今後の課題をグローバルな視点から検討してはいかがでしょうか。

また、重点項目の報告については、「何を実施したか」に加え「どのような社会課題の解決につながっているか」を明記することにより、幅広いステークホルダーからの理解と信頼が得られるでしょう。

従業員との信頼関係や、長年にわたる真摯な組織的マネジメントの取り組みを土台として、多様なステークホルダーとの対話や協働を進め、より広い視点、より中長期の軸で社会の持続的発展に貢献するグンゼグループとして、さらに飛躍されることを期待しています。

第三者意見を受けて

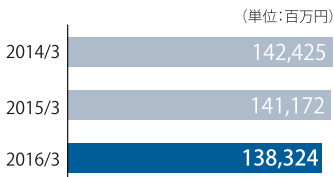
村松先生には、部門CSR責任者会議などでコンプライアンス研修の講師をしていただくなど、いつもさまざまな面からご指導いただいております。ご指摘いただいたとおり、今世界で次々に進められている新たな枠組みを学び、海外子会社、サプライチェーンへの「広がり」の視点、そしてどのように社会課題の解決につなげるかの「未来の視点」を加え、お客さまとの価値共創、地域・社会との共存共栄、従業員のやりがいを大切にしたCSR活動に取り組んでまいります。

会社概要 (2016年3月31日現在)

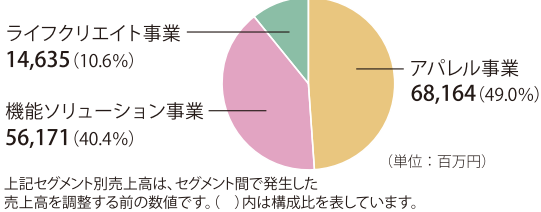
創 業	明治29年(1896年)8月10日	本 店	〒623-8511 京都府綾部市青野町膳所1番地
代 表 者	代表取締役社長 児玉 和	大 阪 本 社	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号
資 本 金	26,071百万円		ハービスOSAKA オフィスタワー
従 業 員 数	1,842名(単体) 6,858名(連結)	東 京 支 社	〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目10番4号
上場証券取引所	東京証券取引所		グンゼ日本橋ビル

連結業績

売上高

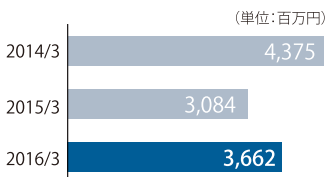


事業セグメント別売上高

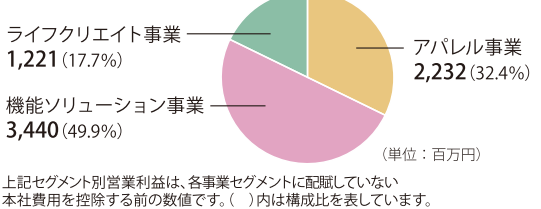


上記セグメント別売上高は、セグメント間で発生した売上高を調整する前の数値です。()内は構成比を表しています。

営業利益

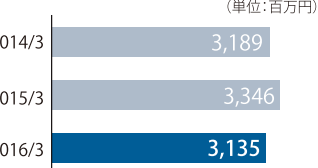


事業セグメント別営業利益

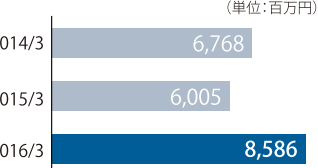


上記セグメント別営業利益は、各事業セグメントに配賦していない本社費用を控除する前の数値です。()内は構成比を表しています。

研究開発費



設備投資



連結対象会社

機能ソリューション事業

プラスチックフィルム	福島プラスチック株式会社／株式会社小津加工センター／グンゼ包装システム株式会社／グンゼ高分子株式会社／福島グラビア株式会社／Gunze Plastics & Engineering Corporation of America／上海郡是新包装有限公司／上海郡是新塑材有限公司／青島郡是新包装有限公司
電子部品	エルマ株式会社／Gunze Electronics USA Corporation／Guan Zhi Holdings Ltd.／東莞冠智電子有限公司／郡宏光電股份有限公司／台湾郡是股份有限公司
エンジニアリングプラスチック	綾部エンブラ株式会社
メディカル	郡是医療器材(深圳)有限公司

アパレル事業

インナー／レッグ	東北グンゼ株式会社／養父アパレル株式会社／Gunze (Vietnam) Co., Ltd.／Thai Gunze Co., Ltd.／山東冠世針織有限公司／郡是(上海)商貿有限公司／大連坤姿時裝有限公司／九州グンゼ株式会社／兵庫グンゼ株式会社／P.T. Gunze Socks Indonesia／株式会社トライオン／グンゼ物流株式会社／山東冠世時裝加工有限公司
繊維資材	津山グンゼ株式会社／中央繊維資材株式会社／上海郡是通虹纖維有限公司／P.T.Gunze Indonesia／郡是(上海)國際貿易有限公司

ライフクリエイト事業 他

グンゼ開発株式会社／株式会社つかしんタウンクリエイト／グンゼエンジニアリング株式会社／グンゼグリーン株式会社／グンゼスポーツ株式会社／株式会社グンゼオフィスサービス／Gunze International Hong Kong, Ltd.

事業内容

機能ソリューション事業(生産財など)

- プラスチックフィルム(ペットボトル用熱収縮フィルムなど)
- エンジニアリングプラスチック(複写機・プリンターの転写ベルトなど)
- 電子部品(タッチパネル、透明導電性・光学フィルムなど)
- メディカル材料(生体内吸収性縫合糸、人工皮膚、生体内吸収性骨接合材など)
- メカトロ(印刷関連の自動省力化機器、高速製袋包装機など)

アパレル事業(消費財)

- メンズインナーウェア
- キッズインナーウェア
- レディスインナーウェア
- ストッキング
- ソックス
- ハウスカジュアルウェア(ホームウェア、ナイトウェア)
- 繊維資材(工業用ミシン糸、産業資材)

ライフクリエイト事業(サービス)

- 商業ディベロッパー(商業施設の運営)
- エステイト開発(不動産の賃貸など)
- エンジニアリング(省エネ事業など)
- 温浴施設(つかしん天然温泉「湯の華廊」)
- グリーン事業(樹木・花卉販売など)
- スポーツクラブ